

東京、八王子、水戸地本執行委員長名「第37回臨時大会に関する抗議、 および緊急措置要求について」に対する仙台地本見解

昨年12月19日「JR東労組の存亡をかけ、向こう2年を展望し、未来を切り拓くために、12地本が総団結し、全組合員と共に組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう！」のスローガンのもと「第37回臨時大会」が開催された。この臨時大会の意義は、組織の存亡をかけ組織拡大をしていくため、向こう2年間の運動を保証するための財政を確保するための大会であることは、11月4日に開催された全地本委員長会議で参加者の満場一致で確認されている。仙台地本としても本部からの提起を受け、職場で議論を重ね、臨時大会の必要性を訴えてきた。しかし、12月17日に東京、水戸、八王子の三地本から突如、本部へFAXで第37回臨時大会中止の要請書が送られてきた。そればかりかその後、ホームページに掲載し、組織内の厳しい財政状況を外部に明らかにしたこの行為は、「新生JR東労組」をつくり出している組合員に対する冒涇であり、組織を破壊する行為であり断じて認めるわけにはいかない。

臨時大会中止の要請から始まり、上部機関の了承がないままの「あっせん申請」、そして、大会決定事項に対して不服を申し立てる行為は、もはや組織を担う責任者とは言えない。

1月13日付けの東京、水戸、八王子の三地本委員長連名の「第37回臨時大会に関する抗議、および緊急措置要求について」は明らかに大会決定違反であり、規約・諸規則違反である。ましてや、ホームページ上で拡散させることによって、あえて内部対立を生み出しでいることも断じて認められない。ときには規約・諸規則を利用し、自らの都合が悪くなると認められないのでは、組織運動は成り立たない。規約・諸規則を遵守することを主張するのであれば、規約第27条にある「各組織および各級機関は、大会、中央委員会で決定された方針を実践しなければならない。これに反する決定は無効とする」とあるように、組織として決めた方針を組合員と共に具体的に実践するべきである。

3万5千人以上の組合員が脱退し、我々は「18春闘は大敗北」と総括した。職場で奮闘している組合員は、組織の弱体化を肌で感じ危機感を持っている。組合員が望んでいることは18春闘以前の職場の状態であり、安心と信頼の下に結集できる組織に属することである。上部機関からの押しつけではなく、職場から創造的に労働運動を展開し、悩みを相談・共有し、みんなで解決できるJR東労組を望んでいる。

我々が今やるべきことは、グループ経営構想「変革2027」をはじめとした矢継ぎ早に提案される会社施策に対して、組織は小さくなったが、第一組合の責任として立ち向かうために心をひとつにすることである。職場の組合員からは、『12地本が一丸となって会社施策に立ち向かわなくてはならないのに、組織が一枚岩になっていないことが再加入の弊害になっている』ことが報告されており、この声に対して真摯に向き合い職場からの議論を展開し、リーダーは実践を通じて組織拡大・強化の為に奮闘すべきである。

東京、八王子、水戸の三地本は直ちに「第37回臨時大会に関する抗議、および緊急措置要求について」を撤回し、それぞれの地方本部の役割と臨時大会方針に則った具体的な方針を持ってリーダーが先頭に立って果たすべきである。それこそが12地本一体の前進に繋がる。

JR東労組仙台地本は、これからも厳しい現実に向かい「組合員と家族の利益と幸せ」を実現するため奮闘していくことを明らかにする。

2019年 1月24日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部執行委員会